［巻頭言］

「ピーエス三菱　技報」発刊にあたって

専務取締役　技術本部長
中村　弘

合併前の両社で発刊していた技術誌を継続すべく検討してきましたが，この度「ピーエス三菱　技報」として発刊することになり，皆様の手元に配布できました．また，全国の社員からの応募により30編以上の技術報告を掲載することができました．先の見えない経済環境下，特に建設投資が減少傾向にある建設業界では，受注競争が一段と激しくなってきました．このような状況のなかで会社が社会的な責任を果たして存続していくには，何か他社と違った商品，差別化した技術が求められます．そしてコスト・サービス・工期・品質など，個別分野で競争するのでなく，トータル技術で差別化できればさらに磨きがかかることは言うまでもありません．加えて，これからはライフサイクルまでを加味できる技術が求められてくるのは必然のように思われます．

このような時代に，わが社の技術部門として，また技術者として今，何をすべきか.それは原点に帰って顧客のニーズだけでなく,社会のニーズに合った，良い物を，所定の工期内に，安全に，適正な価格で造る技術を，他社に先行して備えることにあります．

わが社の技術力は，既存技術の活用だけでなく，その改善・改良はもとより新工法・新技術の開発などは今までの実績で十分認知されています．しかし，今後はニーズの先取り，需要を創出する技術の開発が求められており，そのためにはいわゆるマーケテングリサーチで需要予測を立て無駄のない技術開発をしなければならないと考えられます．

ノーベル賞を受賞された江崎玲於奈博士によると創造力を養うには

①過去のしがらみからはなれる
②大先生，権威にのめりこまない
③無駄な情報は捨てる
④戦うことを避けない
⑤つねに初々しい感性を持っておく

ことを日常から常に意識しておくことが大切だと言われています．

われわれ凡人は過去のしがらみにとらわれ，権威に弱く，情報は溜め込んで捨てきれず，安易に議論を避けて妥協し，年齢と共に感性が鈍り，なかなか創造力が働かず，良いアイデアが湧かないのが現実でもあります．しかし上記5項目は何も創造力を養うためだけでなく，新しい商品・製品・技術の開発をする場合も,また,目前の諸問題を解決する場合にも留意すべき事項であります．

わが国の継続的成長や豊かさの維持向上を図るためには計画的な社会資本整備がまだまだ必要であり，今後建設産業の技術ターゲットとして，グローバル化，高度情報化，高齢化への適合，都市の再生，環境保全，既存ストックの更新と維持管理，などの新たなニーズへの対応が求められています．

土木工業協会では今まで開発した技術を，

①生活の安全と安心を支える技術

上下水道，貯蔵施設，防災関係

②自然環境を守る技術

緑化，空気・土壌・地下水の汚染防止及び改善，リサイクル

③都市を再生させる技術

地下利用，立体交差，リニューアル，リサイクル

④地域を結ぶ技術

道路，鉄道，港湾，空港，トンネル,橋梁

⑤建設を支える要素技術

高強度コンクリート，VE，IT化，機械化

に大別してＰＲに努めています．今後もこれらの分野は長期継続的に需要が見込めるところであります．

技術本部では縦組織での運営と平行して，横断的な組織の技術開発委員会を本社内に設け，委員からの提案を受けて5分野7テーマを会社に答申したところであります．その中には合併効果を期待して新分野に参入ができるテーマも含まれています．

今，メーカーは新商品・新製品を，建設各社は新技術・新工法の開発にしのぎを削っており，毎日のように経済紙・専門紙をにぎわしています．

デフレ経済・右肩下がりの業界環境の中で，日夜努力されている皆さんの貴重な経験と研究を掲載することができました．これらを参考に全社の皆さんがなお一層技術開発・新商品に関心を持って頂いて，当社の技術向上に努力されることを期待しております．